



佐州流刑角田波題目(歌川国芳「高祖御一代略図」)「立正大学情報メディアセンター」所蔵

# 『佐州流刑角田波題目』

復刊 89号

# 妙の光

江戸時代の天保2(一八三二)年、日蓮聖人滅後五五〇年忌を記念して板行された十枚揃い錦絵の一枚である。文永8(一二七一)年10月28日(現在の暦で11月末)、佐渡へ流罪の日蓮聖人は寺泊を船出、強風に流されて角田浜に漂着された。その折り岸辺の岩に、南無妙法蓮華経と書かれたのが『岸の題目』である。そこに現れたひとりの老翁の願いで、岩屋(妙光寺裏手の洞窟)に住む七頭一尾の大蛇を教化され、その記念に書かれた『岩の題目』とともに現存する。翌日再び佐渡に向かわれたが、またもや嵐で船が転覆しそうになった。日蓮聖人が船頭に乞われて竿で波の上にお題目を書かれると、海が静まり無事佐渡に着岸できた。これが角田の『波の題目』の奇跡として後世に伝わり、錦絵の題材となった。所蔵元の解説では「作者は歌川国芳。浮世絵の鬼才と言われ、葛飾北斎とともに大の日蓮宗信徒として知られる。中でも特にこれと『佐渡苦行』の二枚が、江戸の人々に人気を博したすぐれた作品」とある。

『岸・岩・波のお題目』が、角田の三題目と呼ばれ、これに因んで建てられた三ヶ寺のひとつが、現在の妙光寺になった。他に移転した二ヶ寺は、いま新発田市と村上市に在る。

## 行事案内

### 合同法事

今年、年回忌(法事)が当たっていたけれど、都合でできなかったという方のために、合同の年回忌法要を営みます。檀信徒・安穩会員どなたでも。

■12月21日⑧ 午後1時—受付 2時—法要  
3時—銘々で墓参り

- 費用 ●塔婆1霊位 2千円
- お供物共通経費 2千円
- お布施

- 持物 ●位牌
- 墓参用の花、ロウソク、線香

■申込 12月16日までに電話でもかまいませんが、なるべくFAXやハガキ等で。

※平服でどうぞ。

### 月忌納め(お札配り)

12月中に地元の檀徒宅へ、来年のお札を持ってお経に伺います。県外等でお札を希望される方はお送りします。(P10「教えてお上人」も参照ください)

### 除夜の鐘・お焚き上げ

除夜の鐘は31日午後10時30分から、大玄関受付で整理券を配布し、本堂で除夜法要があります。どなたでも一人ずつ必ず撞いていただけます。温かい甘酒、コンニャクの用意もあり、若い人たちで賑わいます。

11時半ころから古いお札、しめ縄等のお焚き上げがあります。当日お持ちになれない方は、事前に祖師堂の受付箱にお入れください。



### 年始参り

1月1日と2日の午前9時～午後4時。最近のご夫婦や家族そろってという方が増えています。お気軽にお出かけください。玄関で受付されたあと、住職が大広間でお待ちしています。気軽なお茶席のご用意もあります。



### 『星祭り』祈願札

個人ごとにその年の星回りがある、元旦の朝に本堂で希望者の『星祭り』を行い1年の安泰を祈願します。家族ごとに1枚のお札にして1軒2千円でお届けします。

新規お申し込みの方は、家族全員の氏名、男女別、生年月日を書いて12月20日までにお知らせ下さい。継続の方は申込不要です。

### 厄除け祈願祭

厄年の祈願祭は、1月31日(土)2月1日(日)のいずれも午前10時。厄年の一覧表を付けた詳細ご案内は別紙でご確認ください。



### 信行会とボランテラ

1、2月の「月例信行会」とボランテラはお休み。次回は3月1日⑧「信行会」、15日⑧ボランテラ(清掃作業)です。

### あとがき

早いもので、『妙の光』インタビューをやらせて頂いて、丸3年になろうとしています。今号の「妙光寺を支える女性たち」へのインタビューは、必見です。妙光寺の元気の素に、触れた思いがいたしました。お話を聞かせてくださった皆さん、ありがとうございました。(新倉理恵子)

# 『ボランテラ』

小川英爾

## A印刷とのご縁

今から35年ほど前、私は地元の日蓮宗青年会事務局長をしていました。当時20代の私は、機関誌の印刷をお願いしていたA印刷の社長さんに、編集のイロハを教えていただきました。復刊して23年が過ぎたこの『妙の光』も、A社長のご指南があつて始めることができたのです。

ある日A社長の息子さんが訪ねて来られて「父が病床で、俺の葬式は妙光寺さんに頼んで、安穩廟に入りたと言ってます。」と相談されました。社長さん亡き後を引き継いだ奥様には、本堂建替えのときの印刷原稿を読まれてすぐに、四菩薩像一体の寄付を申し出ていただきました。A社長ご夫妻は、いまともに安穩廟に眠っておられます。

## 『妙の光』の今

その後『妙の光』は、読みやすくなるために判を大きくし、若い世代を意識してカラーページも作りました。A印刷の現社長は息子さんですが、長いご縁で格段に安くしていただいています。

全体のデザインは「大好きな妙光寺さんのためにやらせてください」と言ってくれた東京のK子さんをお願いしています。超多忙なプロのデザイナーの方ですが、ずっと無料です。編集と写真を手伝ってください。Nさん夫妻もボランテアですし、袋詰め作業は信行会の方たちがやって下さいます。半数は近隣の方ですから、各地区の世話人さんに配布をお願いし送料はかかりません。

このたび皆様に寄付のお願いをした際『妙の光』のカラーをやめ回数も減らしては」とのお手紙をいただきました。また『送り盆』も規模の縮小を」という声もありました。

経費削減は常に意識しており、ご心配下さるご意見をありがたく拝聴しています。ただ『妙の光』はこうしたご協力があり、実費以下で発行できているのです。

## 年間行事もボランテアの支えで

夏の「送り盆」も、当日は100人近いボランテアスタッフで運営されています。お蔭さまで皆さまからの献灯収入もあり、見かけほど持ち出しは大きくありません。

ません。スタッフには、宿泊実費の負担もしていただいています。

ほかの年10回近い行事も、お年始の受付から『除夜の鐘』の寒風の中での誘導整理係まで、すべてが皆さんのボランテアです。毎月15日には「お掃除ボランテラ」があります。寺だからボランテアでなく「ボランテラ」、松本市神宮寺の高橋ご住職の造語をいただきました。昼食持参で片道1時間半かけて自転車でも来てくださる女性もいて「きれいになると本当に気持ちがいいし、皆さんに会えるのも楽しみ」と言ってくれています。

## もつと気軽に来ていただける妙光寺に

よそのお寺ではお手伝いをしてくださる方がいなくなり、お齋をやめたり仕出し弁当にする所もあります。お蔭さまで、妙光寺には当面そうした心配はありません。けれども、肝心の行事の参加人数が増えないのが悩みです。皆さん何かと忙しいとおっしゃいます。経費削減を考えつつ、もつとたくさんの方に気軽に足を運んでいただきたいと頭を悩ませています。



ターに商売は押され、夫の和さんが病気で倒れたこともあり、店を縮小。電話番に専念して、商売は長男の和俊さんと、嫁の光子さんに任せている。最近は専ら韓流ドラマ、と、6人の孫の活躍を楽しみにしている。

長男和俊さんの妻光子さんは、旧巻町で兼業農家の次女として生まれた。商業高校を卒業し、地元の信用組合に勤務していた。ある時、光子さんの母親が入院し、同じ病室に博子さんも入院していた。お見舞いに来た身内同士の縁で、和俊さんと結婚。以来光子さんは、商売で忙しいお店で事務を担当し、二児の母親でもある。

信仰熱心な姑、博子さんの姿を見てきた光子さんは、自分も仏教のことを知りお経を覚えたいと思い、毎月第一日曜朝の妙光寺の信行会に参加するようになった。夏の『送り盆』では太鼓隊として法要に参列、今年10月の「東京池上本門寺お会式参拝」にも参加した。昨年の信行会の忘年会は都合で欠席したが、大きなフルーツケーキを手作りして差し入れた。「これからは一日研修会や、総本山の七面山登詣にも参加していきたい」と、明るく語られた。

(鎌田 記)

荒川博子さんは、新潟市山の下で米穀店に生まれた。兄と二人きょうだいである。2歳の頃、生死をさまようほどの胃腸の病気に罹った。ちょうどその時、山梨県から新潟に歩いて修行に来ていた日蓮宗の僧侶に、両親が出会った。胃腸に効くという薬草を頂いて服用し、このお上人にお経をあげていただいたところ、たちまち回復したという。以来、両親は『法華経』の読経とお題目に熱心に励み、博子さんはその親の姿を見て育った。

中学卒業後、博子さんは家の仕事を手伝うようになった。店は早朝から夜まで忙しかったが、合間を見ては料理など花嫁修行にも励んだ。

昭和30年、ご主人の和さんと結婚した。和さんは新潟市の中心街を焼き尽くした新潟大火の復興作業のために、鳶職人として県外から仕事に来ていた。結婚を機に、鳶をやめた和さんと共に、昭和35年発展著しい小針の地で、『荒川金物店』を開業した。ホームセンターの走りとして店は大繁盛。生活雑貨や灯油の販売、ガラス修理など、夫の和さんを助けて、仕事一筋に休みなく働き、今年で55年目になる。

やがて、信仰の場として自然にも恵まれ、日蓮聖人にゆかりの深い妙光寺に墓地を求め。自宅の仏壇には、御前様に書いていただいた曼荼羅御本尊が掛けられ、朝5時から2時間に及ぶ読経と唱題を毎日欠かしたことがない。身延山久遠寺や池上本門寺団体参拝に何度も参加し、七面山にも4回登詣した。昨年の開創700年法要には、娘さんと一緒に参加した。さらにその年の秋には夫婦で生前戒名も授かった。

時代の波で郊外型の大規模ホームセン

信心

母から娘、そして嫁へ

新潟市西区

荒川博子さん(78歳)  
光子さん(51歳)



羽生ヒロ子さん（福井）  
若くして夫を亡くし、義父母と子どもたちの家族を、一人で働きながら支えてきた。



大滝幸子さん（角田浜）  
夫は檀徒総代の大滝剛さん。専業農家であり、早朝3時から夕方7時まで畑で働く毎日である。



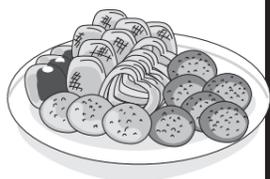
内藤良子さん（割煎）  
自営の鉄工所を、夫とともに切り盛りしている。最近義母を看取ったばかりである。

# 妙光寺を支える女性たち

## ——女性檀徒のみなさんに聞く——

妙光寺の行事で、お齋をいただいたことはありませんか？とびきりおいしい精進料理の数々を、楽しみにしている方も多いことでしょう。行事のたびに、寺庭夫人である小川なぎささんを支えて、ともに台所に立っているのは女性檀徒の皆さんです。いつもは台所において姿の見えない皆さんに、お話を聞いてみました。3人は同世代で「アラ還」です。

（なお、妙光寺のお齋は本当においしいので、まだ食べたことがないという方は、是非行事に参加して召し上がってください。）



お勝手の当番は、地区ごとに分担しているんですね？

内藤 私たちは、だいたい年に一回です。幸子さんは毎回でしょ？

大滝 私は以前はほとんど毎回出していたんだけど、なぎささんが配慮してくれて、今はネギの収穫期で忙しいもんだからこ

の前はお休みさせてもらって、年数回です。

羽生 地区ごとに分担していて、年一回地区のみんなとっしょに来ます。だいたい8時に家を出て、8時15分から始めます。でもね、意外と大変じゃないんですよ。そのお寺は、献立からみんな考えてるなんて聞くけど、ここはなぎささんが下

準備をしてくれまから。

大滝 冷蔵庫に献立が貼ってあって、みんな指示してくれるんです。

内藤 切り方からなんからね。なぎささんは、私たちよりも若いのにね。

羽生 小泉さん（5年前まで勤務し境内整備と調理を担当）がいられた時と、指示の仕方は同じだよ。

大滝 小泉さんのノウハウを、なぎささんが受け継いでるね。

羽生 新しいお料理も教えてもらえるし、本当に楽しいですよ。

内藤 でも、すぐ忘れちゃうの。何がって言われると、今思いたせないのよ。でも、その時は「なるほど、こうやるのか！」ってね（笑）

羽生 それに、この料理は全部手作りだもんね。既製品はないからね。

大滝 御前さまのお母さんは身体が悪かったから、なぎささんは若い時から勝手頭としてやってきた。最初は、お料理を写真に撮ってノートにレシピを書き込んで。その頃は小泉さんもいなくて、年配の人たちに「お願いします」と言わなきゃいけないし、苦労したと思いますよ。でも一方で、なぎささんが早くから切り盛りしていたから、若い世代が早くから来るようになったのね。世代交代が早く進んだという事はあった。

羽生 うちのおばあちゃんも、そう言うたよね。「もうそろそろ手伝いは交代して行つてくんねろっかの」と言われてね。

「この寺は、なぎささんでもっている」とよく聞きますね？

羽生 なぎささんは大変なのに、いつも大らかに明るくしておられて、私にはとてもまねできない。

大滝 子どもたちが小さい頃は、本当に大変だったから、なぎささんのお母さんも泊まり込みで手伝ってたよね。

内藤 この大滝幸子さんがなぎささんを支えた、ということもあるのよ。なぎささんが若い時は、幸子さんも若かったから。（笑）  
羽生 子どもが4人年子で、しかも最後は双子だから、忙しくて大変だったと思うの。幸子さんがいたから、なぎささん

も頑張れたんだわ。

内藤 普通はギスギスしますよね。どうやってるんだろうね。不思議だわ。なぎささんの性格なの？

大滝 大らかさは、私たちに見せる姿よ。爆発する時もあるよ。たぶん、御前さまに対してね。そういうところがないと駄目でしょう。

普通の家庭からお寺に嫁いだんだから、なぎささんには「こんな人生のはずじゃなかった」という思いもあるでしょうね。

3人 そうそう、私たちだって、みんなそうよ！女性はみんな「こんなはずじゃなかった」って思ってるのよ！（大笑）

現在の妙光寺について、どんなふう感じていますか？

内藤 子どもの頃は、おばあさんに連れられて、お盆になると必ずお寺に行つたよね。実家のお寺は寺泊なんだけど海水浴してお寺で休んでね。

羽生 そういのは忘れないよね。境内で遊んだりしたことか。

大滝 昔はみんなそうやって、お寺に行つてたよね。

羽生 でも子どもの頃は、お寺はちよつと格式があつて、何かある時しか行けないものだった。妙光寺にはいろんな人が出入りしているし、お寺のイメージが違つてきているという感じがしますね。

大滝 私は同窓会とかに行つても、妙光寺の話をしようかな、と思いますね。案外と誇りに思つてる。

内藤 私、友達に安穩廟を見せにきたことがあるんだわ。「すごいお寺だねー」って言われて。そして、その友達がまた別の友達を妙光寺に案内したつて後で聞いたの。まさに口コミだよ。

羽生 いろんなお通夜に行くと、うちのお寺が一番いいと思う。知人で付き合ひの広い人が「何百回とお通夜に出たけど、羽生さんのお寺のようないいお通夜に出たことない」って言ってくれる。

大滝 お経もいいよね。

内藤 お葬式で亡くなった人の人生をお経の中で語ってくれるじゃない。こんないいお経初めて聞いたつて皆が言ってくれる。

大滝 法話もいいしね。

内藤 天下一品だよ。

いよいよ来春には良恵さんが帰つてきて、2年後には住職も代替わりとなります。妙光寺の将来については、どう考えますか？

内藤 代替わりは、早すぎるんじゃない。これだけ大きくなつてしまったんだから。良恵さんが可哀そうだよ。苦労するつて。

羽生 御前さまのお経や法話に惚れてる人がたくさんいるのに、良恵さんが大変ですよ。

大滝 御前さまは後ろで支えるつもりだ

ろうけど、無理だと思う。気がついたら前に出てるよ。

羽生 それに私、御前さまにお経上げてほしい。御前さまから私の戒名を付けてもらいたいと思ってるんだよね。うちは、ばあちゃんも、夫も、御前さまに戒名を付けてもらったんだから。

内藤 だからやっぱり、死ぬまで住職をやらなくちゃだめだよ。自営業みたいなもんなんだから。死ぬまで働かなくちゃ。羽生 良恵さんは女性だから、余計大変だと思ふんだよね。どんな世界でも、足を引っ張られることがあるだろうし。突出してる寺だからね。

大滝 うちの夫も、私の言うことは聞かないけど、跡継ぎの息子の言うことはよく聞くのよ。御前さまも、良恵さんが来れば少しずつ態勢も変わってくると思うの。だから2年なんて言わないで、少しずつ慣らしていくのがいと思う。

内藤 応援するからやってほしい。誰も辞めてなんて言っていないんだからさ。（笑）

皆さんとしては、まだまだ頑張つてほしいということですね。ありがとうございませした。（編集部・新倉理恵子）

後日御前さまに、皆さんの希望をお伝えしました。「住職冥利に尽きる」と感動されていました。ただし「代替わりしても、ご希望があれば戒名も付けるし葬儀も行うので、「安心ください」とのことでした。

## 客殿屋根改修工事完成



雨漏りしていた客殿屋根の全面張り替えがこのほど完成いたしました。新工法で屋根のラインに優しい丸みが変わりました。これでどんな天気でも安心です。皆様のご協力に感謝いたします。

## 菊花



秋の大玄関には、毎年美しい菊花が飾られます。檀徒の内藤清さんと河村一良さんが丹精込めて育てられたものです。この時期には、この菊花を楽しむに来寺する方も

## 住職講演



この秋も小川住職の講演が続きました。10月には新潟市『砂丘館』(写真)のナイトセミナーで、2回にわたり「現代人の死生観」を、11月は昨年引き続き岩室地域コミュニティ協議会で、「終活」がテーマでした。

インドの寺院で奉納舞として伝えられてきたオリッシーダンス。今回は、日本で活躍中の篠原英子さんが、妙光寺の本堂でその踊りを捧げました。「動く彫刻」とも称される美しい舞に参加者からはため息が…。

## 身延山布教隊 来寺

10月20日(月)



日蓮宗総本山「身延山久遠寺」より、総勢30名の修行僧が妙光寺に立ち寄り、参拝されました。若々しく力強い太鼓と読経に、お迎えした檀信徒の皆さんも感無量。



## 秋の一日研修会 11月4日(火)・24日(月)



恒例となった春と秋の研修会。今回は受講1~2回目と3回目以上の方で、二日間に分けて行いました。

## 東インド古典舞踊 オリッシーダンス公演

11月15日(土)



## 「秋をいける」10月4日(土)

燕市在住の花師、丸山正栄さん春江さんによる生け花パフォーマンス。花器は中野亘さん作。



## 「いづく日和」10月25日(土)

中野さん作の茶碗で一服。お点前は、安穩会員の小川宗聡さん(裏千家)と妙光寺茶道部の皆さん。

# 寺のうごき秋

中野亘 陶展 10月1日(水)~31日(金)



妙光寺で4回目となった中野亘さんの陶芸展。今年は1ヶ月の間、『京住院』を中心に、境内の各所に作品を展示しました。毎日途切れなく、多くの方にお出でいただきました。

## えしき お会式と第13回法号授与式 10月19日(日)



妙光寺での「お会式」。日蓮聖人のご命日の法要がしめやかに執り行われました。仏様の弟子になった証の法号(戒名)を授かる授与式。今年は11人が小川住職より生前法号を頂きました。

午後は三流亭楽々さんの落語で皆さん大笑い。日蓮宗になじみ深い演目で拍手喝采でした。

## えしき 池上本門寺 お会式団体参拝 10月12日(日)



池上本門寺は日蓮聖人が61歳で入滅(臨終)された霊跡です。新潟と関東の方々が合流して、24人で参拝しました。

日蓮聖人の遺徳を偲ぶ「お会式法要」。お逮夜に当たる12日の夜は、30万人の参詣者で賑わいます。



浄土基金現況

このたび「妙光寺・浄土基金」を設立いたしました。

世の中の価値観の変化の中で、お寺を運営していくうえで経済的環境が厳しくなっています。妙光寺としても例外ではなく、境内の環境と施設を維持していくことに苦心しています。この『基金』は、檀信徒の皆さんの負担を少しでも軽減するために、長期的な見通しで運営できるよう設立したものです。

左記にその現況をご報告を申し上げます、ご理解と引き続きのご協力をお願い申し上げます。

寄付申込総額 37,514,384円  
(11月17日現在)

客殿屋根改修工事完了

春先に築33年目の客殿に雨漏りが見つかり、急ぎよ銅板屋根の張り替えを行いました。9、10月の2ヶ月間天候に恵まれ工事は順調に進みました。台所屋根の張り替えも、追加工事で完了しました。

ベニヤ板だった下地を杉板にし、銅

板の厚さも0.3ミリから0.4ミリに変え、新しい工法を加えてより安心できるものになりました。お礼申し上げます。



インド仏遺参拝ツアー

満席に

インドにお釈迦様の足跡を訪ねる旅が、定員超の26名で受付を締め切りました。住職夫妻もこれに同行するため、来年2月18日〜25日まで不在となります。ご承知おきください。

『安穩廟』現況

近ごろ「墓じまい」などと、墓の跡継ぎ問題を取り上げる報道が増えています。その影響が安穩廟の間合せや契約も増えています。「もう無くなる」との噂話が広まっているようですが、『池の上』も残り50区画余りあり、まだ2年ほどは余裕があります。



檀徒用安穩廟工事

諸般の事情で遅れていた、『檀徒用安穩廟』の工事が進行中です。敷地の確保と盛土を年内に完了し、冬場に土を固めて春先に完成予定です。

誌上法話 小川英爾



「今の日限女は三十七の厄と云々。  
厄と申すは譬えばさい(賽)にはかど、弁にはすみ(隅)、  
人にはつぎふし(関節)、方には四惟のごとし」

『日限女釈迦仏供養事』

日蓮聖人が信者の日限女という女性に宛てたお手紙の一説です。日限女が37歳の厄年に当たり、お釈迦様の像を作り、日蓮聖人に厄除けの「お守り」を頼みました。お守りを受け取ったお礼に日限女から届いたお布施に対して、日蓮聖人が送られた礼状です。

このお手紙の意味は「いまあなた(日限女)は37歳の厄年で、気がかりということですね。厄というのは、例えて言えばサイコロには角が、弁には隅が、人には関節が、方角には東西南北があるようなものです」ということです。そしてお手紙は、日限女がお釈迦様の像を作り供養することは功德が大きく、厄を払って安穩であるだけでなく、未来の成仏もかまいませんよ、と続きます。

当時も今も、厄年には災難や障害が降りかかるとして、気にすることは変わりありません。現在の厄年は一般的に男性が25と42歳、女性は19と33歳と言われます。このお手紙の女性は37歳ですから、時代によって違いがあることがわかります。厄年という考えは中国の陰陽道が始まりで、詳しくみると現代でも諸説あり、前厄と後厄を加えると大方の年齢が厄年に該当するほどです。

現在の42歳は四二(死に)、33歳は三三(散々)という、言葉の語呂合わせに近いもの

が由来だとも言われます。古い書物には「男子は8歳から血気がさだまり、16歳で精通し、8年ずつ血気が変じて、41歳から血気が衰えるので、40歳を初老という」とあり、男性の精力が衰えていく年を厄年としています。男女とも体調が変化して、老化現象の始まる年齢を指しているようです。女性の33歳はお肌の曲がり角とか、最近ではアラサーなどという言葉もあります。(今も昔も数え年なので、満年齢よりは1歳若くなることをお忘れなく)。

こうした体調が変化する年齢だから気を付けろという説のほかに、厄年は「役年、である」との説もあります。一定の年齢に達した人が、地域のお祭りの役を担って、神輿を担ぐなど様々な役に付くために、心身を清め、無事に奉仕できるように祈ったというものです。現代でも家庭内や職場、地域での役割を担う年齢と重なりますから、その責任と体調変化に注意を払うのは意味のあることといえます。

しかし大切なことは、災難の無い人生はないということです。「災い転じて福となす」の言葉がありますが、「厄を転じて福となす」ようお力をいただく、日ごろからの謙虚な気持ちと信仰が大切です。それが冒頭の日蓮聖人のお手紙の趣旨といえるでしょう。





質問

暮れにお寺からいただく「お札」の意味を教えてください。

「しあわせを探す」

白鳥の隊列

11月に入ったら、暖房の暖かさが恋しくなりました。夜は暖かなくつくろげないので早々とこたつを出し、今日はあまりにも寒いので寝る前に近くの温泉に行ってきました。寒々とした夜の空が大きな月で明るく照らされる湯船で温まっていたら、クアークアと賑やかな鳴き声が聞こえてきました。白鳥の隊列が白い月を横切って行きます。こんな夜に白鳥が飛ぶなんて…。月明かりを頼りに「もう少し頑張ろう！」などと話しながら、近くのねぐらを目指していたのかもしれませんが。この美しい光景に、近くでお風呂に入っていた女性グループの一人が言いました。「今日はいいものをたくさん見たわ。山の紅葉、きれいな月、白鳥、お風呂にもゆっくり入って、幸せね!」と。

『世界しあわせ紀行』

夏の終わりに『世界しあわせ紀行』という本を読みました。戦争や紛争の取材にうんざりした報道記者が、世界じゅうの幸福度が高い国を旅して、人間が幸せとを感じるものを探す旅の記録です。わが日本は残念ながら幸福度がとても低いので、来てくれませんでした…。それで「幸せ」について興味を持ちました。

日々の生活だけで考えると、私自身は「幸せ?」と聞かれたら「うーん」と答えるとおもいます。大人なら、なかなか答えられませんよね。幸福は非常に個人的な感情に左右されるものですし。それで先日10年ぶりの同級会にあって、調査してきました(笑)。

といっても、4人の仲良し会なのですが。介護や夫との関係など問題はかかえつつ、でも家族に頼りにされている間はおおむね幸せ、つまらない家事も「ありがとう、助かるよ」の言葉や、たまの同級会などの外出に快く行かせてもらえれば、それだけで幸せ感はアップ! 時間に追われる生活でも幸せと感ずる…。

私の妹はガラスの作品を作って仕事としていますが、かけ出しの頃あまりにも貧乏で「辛いなの?」と聞くと「お金が無いのはきつけれど、好きなものを作っているから幸せだよ。」となんの迷いもなく言いました。お金でもない…。

幸せってなんだろう?

幸せってなんだろう? 幸せな人生は自分の力で切り開けるものではあると思うけれど、同時にある種の運命のような流れに乗っかっていても、思わぬところで(あれれれー?)と思うような出来事が起こります。本当にわかりません。

ささやかでも、小さくても、シンプルに日々の暮らしの中にあられる「わーい」が幸せで、「くそっ」と思うことが不幸、そんな程度でよいのではないかと思いはじめました。

今年も妙光寺の一年が終わります、いろいろな行事等へのご協力ありがとうございました。栗は豊作でしたが、銀杏は不作のようです。それでも少ないものをみんなで分け合う!これってすごく幸せ感がありますか?大晦日にお配りします。暖かくしてお出かけ下さいね。

(\*『世界しあわせ紀行』エリック・ワイナー著 関根光宏訳 早川書房)

12月になると近隣檀徒の全てのお宅に、月忌納め(1年の命日の締めくくり)のお経に伺っています。その際には大掃除を終えるところの新しいお札に張り替えて、新年を迎える準備を整えます。

『南無妙法蓮華経・角田山』というお札は角札といいますが、日蓮宗の信徒で、妙光寺の檀徒であるという標示と、併せて不幸を排除する目的で出入口に貼ります。最近には様々な宗教の訪問勧誘が増えて、ときにはしつこいものもあります。そのとき「我が家はこちらのお寺ですから、このお札を指し示したらずくに帰りました」という話を聞きました。こんなご利益もあるようです。

『御守護』のお札は文字通りお守り札で、不幸のないようにお守りいただくものです。中にお経を書いたお札が入っています。

『火不能焼水不能漂』はお経の文言で、『三宝荒神』を表します。『三宝荒神』は不浄を焼き尽くす神聖な火がある場所

所と言われた「かまど」の神様として祀られます。これは陰陽道の民間信仰から起こりました。日蓮聖人は「三宝荒神は十羅刹女なり」と説かれ、『法華経』を信仰する人の守護神とされました。羅刹は鬼の形相という意味で、十人の鬼形の女ということです。その母親の鬼子母神とともに「法華経を誦読し受持せん者を擁護し、その衰患を除かんと欲す」とお経にあります。これは、その怖い鬼の顔で法華経信者を悩ます悪者から守るということで、お札にしてお守りいただくものです。

「令百由旬内無諸衰患」のお札は



毘沙門天を意味します。持国天、増長天、広目天、多門天の4人の神様を『四天王』と言います。インド古来の神様で、仏教を守ることを誓い守護神として崇められるようになりました。その中の多聞天の別名が毘沙門天です。毘沙門天は「七福神」の一人として、七難を避け、財宝や富といった七福を与える縁起の良い神様です。同時に戦いの神様とされ、上杉謙信が守り本尊に信仰したことで知られています。武人のお姿は仏法を邪魔するものを退治して、仏様の教えを守る様を表しています。

以上4種類のお札は、妙光寺に古くから伝わる木版から、1枚ずつ手刷りしてあります。現在は枚数が多くなつて、住職が手刷りした1枚を写真製版して印刷しています。受け取る方の幸せを祈り、お経をあげて加持祈禱してあります。意味を理解いただき丁寧に扱ってください。

\*お札ご希望の方にはどなたでもお分けします。おいでいただけなければ、郵送もいたします。